

Eicosanoids, 1997, 7, Edinburgh.

- 2) Sawazaki S., Hamazaki T., Wada Y., Kanai C., Kato K., Adachi A., and Kobayashi M.: Effects of DHA on oral glucose tolerance test (OGTT) and plasma catecholamines. A double-blind study. 4th International Congress on Essential Fatty Acids and Eicosanoids, 1997, 7, Edinburgh.
- 3) Sakamoto T., Hamazaki T., Miyake M., Doi S., Morishita M., and Torii S.: Effects of intravenous infusion of tridocosahexaenoyl-glycerol emulsion on eosinophil infiltration in rat lung induced by sephadex beads. 4th International Congress on Essential Fatty Acids and Eicosanoids, 1997, 7, Edinburgh.
- 4) Yokoyama A., Hamazaki T., Ohshita A., Kohno N., Sakai K., Hirasawa Y., Hiwada K., and Kobayashi M.: Effects of aerosolised tridocosahexaenoyl-glycerol emulsion on a murine model of allergic pulmonary inflammation. 4th International Congress on Essential Fatty Acids and Eicosanoids, 1997, 7, Edinburgh.
- 5) 浜崎智仁: n-3系多価不飽和脂肪酸と動脈硬化. 日本臨床栄養学会, 1997, 11, 札幌.
- 6) 浜崎智仁: n-3系脂肪酸の新しい作用機序. 合同シンポジウム, 1997, 11, 札幌.
- 7) 北川貫次, 安東嗣修, 長澤哲郎, 佐藤公道, 倉石 泰: サブスタンスP、ヒスタミン及びセロトニン誘発痒み関連行動に対するヒスタミン拮抗薬及びセロトニン拮抗薬の異なった作用. 第70回日本薬理学会年会, 1997, 3, 千葉.
- 8) 安東嗣修, 倉石 泰, 長澤哲郎: マウスのサブスタンスP誘発痒み関連行動への一酸化窒素(NO)の関与と役割. 日本薬学会第117年会, 1997, 3, 東京.
- 9) 北川貫次, 安東嗣修, 長澤哲郎, 倉石 泰: ICR系マウスにおけるヒスタミン誘発痒み関連行動に対するH1及びH2受容体拮抗薬の作用. 第48回日本薬理学会北部会, 1997, 10, 岩手.
- 10) 北川貫次, 安東嗣修, 倉石 泰, 長澤哲郎: 痒み関連行動惹起作用におけるhistamine感受性のマウス系統差. 第2回日本ヒスタミン研究会, 1997, 11, 京都.

病 態 生 化 学

教 授	濟 木 育 夫
助 教	中 島 松 一
助 手	村 田 純
技 官	林 和 子

◆ 著 書

- 1) 濟木育夫, 村田 純: 第 I 部: 転移臓器別モデル, A. 肺, 2. B16メラノーマの肺転移, 「続=がん浸潤・転移研究マニュアル」, がん転移研究会/編, 7-11, 金芳堂, 1997.

◆ 原 著

- 1) Ata N., Oku T., Hattori M., Fujii H., Nakajima M. and Saiki I.: Inhibition by galloylglucose (GG6-10) of tumor invasion through extracellular matrix and enzymatic degradation by metastatic tumor cells. *Oncology Res.*, 8 (12): 503-511, 1996.
- 2) 奥 直人, 徳留嘉寛, 小池千恵子, 岡田昌二, 西川尚之, 森 英登, 濟木育夫: リポソーム化RGDによる癌転移抑制, *Drug Delivery System*, 12 (1): 13-18, 1997.
- 3) Ohnishi Y., Sakamoto T., Fujii H., Kimura F., Murata J., Tazawa K., Fujimaki M., Sato Y., Kondo M., Une Y., Uchino J. and Saiki I.: Characterization of liver metastatic variant of murine colon 26 carcinoma cells. *Tumor Biology*, 18: 113-122, 1997.
- 4) Oku N., Koike C., Tokudome Y., Okada S., Nishikawa N., Tsukada H., Kiso M., Hasegawa A., Fujii H., Murata J. and Saiki I.: Application of liposomes for cancer metastasis. *Advanced Drug Delivery Reviews*, 24: 215-223, 1997.
- 5) Saito K., Oku T., Ata N., Miyashiro H., Hattori M. and Saiki I.: A modified and convenient method for assessing tumor cell invasion and migration and its application to screening for inhibitors. *Biol. Pharm. Bull.*, 20 (4): 345-348, 1997.
- 6) Ogasawara M., Murata J., Ayukawa K. and Saiki I.: Differential effect of intestinal neuropeptides on invasion and migration of colon carcinoma and endothelial cells. *Cancer Letters*, 116: 111-116, 1997.
- 7) Oku T., Ata N., Yonezawa K., Tokai H.,

- Fujii H., Shinagawa A., Iwata K. and Saiki I.: Antimetastatic and antitumor effect of a recombinant human tissue inhibitor of metalloproteinases-2 in murine melanoma models. *Biol. Pharm. Bull.*, 20 (8): 843-849, 1997.
- 8) Saiki I.: Review: Cell adhesion molecules and cancer metastasis. *Jpn. J. Pharmacol.*, 75 (3): 215-242, 1997.
- ◆ 総説及びその他
- 1) 済木育夫: 特集「第6回日本臨床腫瘍研究会」, 新しい化学療法 標的分子阻害剤のスクリーニング法, 基底膜浸潤阻害物質, 癌と化学療法, 24 (2): 187-195, 1997.
- 2) 済木育夫: インタビュー/漢方を拓く, 十全大補湯が癌のプログレッションを抑制, 漢方医学, 21 (1): 11-13, 1997.
- 3) 済木育夫: 第9回関越UFT研究会 特別講演I 「細胞接着の制御と癌転移の抑制」接着相互作用の阻害と亢進, 第9回関越UFT研究会講演集, 41-50, 1997.
- 4) 済木育夫, 大西康晴: 漢方特集, 十全大補湯による癌の悪性化進展抑制, *JAMA 日本語版*, 18巻4号: 48-49, 1997.
- 5) 大西康晴, 藤猪英樹, 猪部 学, 木村文成, 村田 純, 村上正晃, 上出利光, 坂本 隆, 田沢賢次, 藤巻雅夫, 済木育夫: 特集「第17回癌免疫外科研究会」(速報) サイトカインと腫瘍免疫, B7-1(CD80)遺伝子を導入した癌細胞ワクチンによる転移抑制効果, *Biotherapy*, 11 (5): 621-622, 1997.
- 6) 済木育夫, 大西康晴: 癌と十全大補湯, 第2回天然薬物研究方法論アカデミー白樺湖シンポジウム記録集, *Methods in Kampo Pharmacology*, 2: 54-60, 1997.
- 7) 済木育夫: "BACT研究会のさらなる発展を期待して", *BACT ニュースレター*, 1: 1-2, 1997.
- 8) 済木育夫: 特集「第6回がん転移研究会シンポジウム記録集」シンポジウムIIがん浸潤・転移研究手法に関する最近の進歩, 癌の転移・浸潤研究への培養細胞を用いたアプローチ, *Biotherapy*, 11 (9): 1016-1020, 1997.
- 9) 佐治重豊, 済木育夫, 相良祐輔, 中津川重一: 座談会/十全大補湯による癌の転移・再発の予防, 漢方医学, 21 (11): 2-11, 1997.
- 10) 済木育夫: 春季シンポジウム「癌転移研究の最近の進歩」, 癌細胞の接着阻止による転移治療, 第56回北海道癌談話会記録, *ミノファーゲンレビュー*, 42 (5): 35-36, 1997.
- 11) 永川 修, 布施秀樹, 済木育夫: 特集「器官培養とその応用」癌細胞浸潤能のin vitro測定系, 組織培養工学, 23 (14): 540-544, 1997.
- ◆ 学会報告
- 1) 済木育夫: 癌の悪性化進展と十全大補湯, 平成8年度北陸地区漢方症例報告会, 1997, 3, 23, 富山.
- 2) 済木育夫: 衛生化学部会シンポジウム「病態と酵素 - プロテアーゼとインヒビター」癌の浸潤・転移における膜結合型アミノペプチターゼN(CD13)の役割, 日本薬学会第117年会, 1997, 3, 26-28, 東京.
- 3) 長尾則男, 中山朋子, 江藤哲也, 羽田実代, 三羽信比古, 済木育夫, 宮崎香, 正札研一, 伊東忍, 小方英二: アスコルビン酸の細胞機能 VII: 癌浸潤・転移の抑制効果, 日本薬学会第117年会, 1997, 3, 26-28, 東京.
- 4) 西川尚之, 駒澤宏幸, 小島政芳, 伊藤 勇, 東市郎, 藤猪英樹, 済木育夫: RGDの部分レトロおよび部分レトロ逆転ペプチドの合成と生物活性, 日本化学会第72春季年会, 1997, 3, 27-30, 東京.
- 5) 済木育夫: シンポジウム「がんの浸潤・転移研究手法に関する最近の進歩」癌の浸潤・転移研究への培養細胞を用いたアプローチ, 第6回がん転移研究会総会, 1997, 4, 3-4, 広島.
- 6) 鮎川幸一, 村田 純, 済木育夫: マウスに移植されたB16-BL6メラノーマの原発巣及び肺転移における α -MSHの機能解析, 第6回がん転移研究会総会, 1997, 4, 3-4, 広島.
- 7) 大西康晴, 藤猪英樹, 木村文成, 早川芳弘, 作川理恵子, 村田 純, 坂本 隆, 田沢賢次, 藤巻雅夫, 佐藤裕二, 近藤正男, 宇根良衛, 内野純一, 済木育夫: 十全大補湯の肝転移抑制効果, 第6回がん転移研究会総会, 1997, 4, 3-4, 広島.
- 8) 藤猪英樹, 駒澤宏幸, 西川尚之, 織笠 敦, 伊藤 勇, 東市郎, 済木育夫: RGD疑似ペプチドを用いた癌転移・浸潤の阻止効果, 第6回がん転移研究会総会, 1997, 4, 3-4, 広島.
- 9) 松岡 翼, 鄭 容錫, 八代正和, 西村重彦, 井上 透, 富士原知史, 澤田鉄二, 仲田文造, 前田清, 済木育夫, 曾和融生: 胃癌腹膜播種性転移形成に対する各種接着ペプチドの予防効果, 第6回がん転移研究会総会, 1997, 4, 3-4, 広島.
- 10) 小笠原 勝, 村田 純, 済木育夫: マウス Colon26-L5 結腸癌細胞の肝転移に及ぼす神経ペ

- プチドVIPの抑制効果とその作用機序の解析, 第6回がん転移研究会総会, 1997, 4, 3-4, 広島.
- 11) 済木育夫: 特別講演: 細胞接着の制御と癌転移の抑止, 第10回富山癌治療懇話会, 1997, 5, 23
 - 12) 大西康晴, 藤猪英樹, 木村文成, 早川芳弘, 作川理恵子, 村田 純, 坂本 隆, 田沢賢次, 藤巻雅夫, 済木育夫: マウス結腸癌肝転移モデルにおける十全大補湯の転移抑制効果, 第18回癌免疫外科研究会, 1997, 5, 28-29, 岐阜.
 - 13) 大西康晴, 藤猪英樹, 村田 純, 坂本 隆, 田沢賢次, 藤巻雅夫, 済木育夫: シンポジウム2「癌細胞と間質との相互関係からみた転移, 浸潤の諸問題」細胞接着阻害擬似ペプチドによる抗接着療法の癌転移におよぼす効果, 第50回日本消化器外科学会, 1997, 7, 17-18, 横浜.
 - 14) 李 貞範, 林 利光, 三川 潮, 林 京子, 三嶋 敬章, 村田 純, 済木育夫, 前田昌徹: 藍藻スピルリナ*spirulina platensis*由来硫酸化多糖, カルシウムスピルランの構造と癌転移抑制作用, 第11回天然薬物の開発と応用シンポジウム, 1997 8, 1-2, 東京.
 - 15) 済木育夫: 特別講演1「十全大補湯による癌の悪性化進展および転移の抑制」, 第4回札幌臨床漢方研究会, 1997, 8, 8, 札幌.
 - 16) 済木育夫, 阿多直美, 奥 亨, 服部征雄, 中島元夫: 癌細胞の基底膜浸潤におけるGG6-10の効果とその作用機序の解析, 第2回病態と治療におけるプロテアーゼとインヒビター研究会, 1997, 8, 20-21 名古屋.
 - 17) 大越基弘, 中島元夫, 済木育夫: セリンプロテアーゼインヒビターによる悪性腫瘍細胞の浸潤・転移阻害実験, 第2回病態と治療におけるプロテアーゼとインヒビター研究会, 1997, 8, 20-21, 名古屋.
 - 18) 済木育夫: 十全大補湯による癌の悪性化進展および転移抑制に関する基礎的検討, 生体防御と補剤〜補剤治療の意義とその位置づけをめぐって〜, 第13回臨床和漢薬研究会, 1997, 8, 29, 大阪.
 - 19) 渡辺知恵, 長谷耕二, 奥 亨, 永井博式, 門田重利, 難波恒雄, 済木育夫: シンポジウム「生薬利用の新展開」ススキ花穂による実験的アトピー性皮膚炎に及ぼす効果について, 第14回和漢医薬学会大会, 1997, 8, 30-31, 大阪.
 - 20) 若林千里, 長谷川秀夫, 村田 純, 内山雅守, 済木育夫: 人参サポニンおよびその代謝物による癌の浸潤・転移におよぼす効果, 第14回和漢医薬学会大会, 1997, 8, 30-31, 大阪.
 - 21) 大西康晴, 藤猪英樹, 斎藤健一, 山浦 剛, 早川芳弘, 作川理恵子, 村田 純, 坂本 隆, 田沢賢次, 藤巻雅夫, 済木育夫: 十全大補湯の経口投与によるマウス結腸癌肝転移抑制効果, 第14回和漢医薬学会大会, 1997, 8, 30-31, 大阪.
 - 22) 早川芳弘, 藤猪英樹, 大西康晴, 作川理恵子, 長谷耕二, 門田重利, 難波恒雄, 済木育夫: マウス結腸癌実験的肝転移モデルにおける青箱子の転移抑制効果, 第14回和漢医薬学会大会, 1997, 8, 30-31, 大阪.
 - 23) 済木育夫: 特別講演: スピルリナの生理作用〜腫瘍転移抑制効果, スピルリナ生理活性研究会, 1997, 9, 5-6, バンコク.
 - 24) 徐 強, 蔣 潔雲, 呉 斐華, 藤猪英樹, 済木育夫: 遅延型免疫反応性肝障害の発症と中薬土茯苓の肝障害改善効果, 第1回免疫薬理研究会, 1997, 9, 19, 岐阜.
 - 25) 小嶋聡一, 劉 建文, 吉田龍太郎, 済木育夫: 朝鮮ニンジンサポニンによる線溶活性の亢進, 第70回日本生化学会大会, 1997, 9, 22-25, 金沢.
 - 26) 大西康晴, 藤猪英樹, 早川芳弘, 村田 純, 田沢賢次, 藤巻雅夫, 済木育夫: 十全大補湯のマウスColon 26 結腸癌肝転移抑制効果, 第56回日本癌学会総会, 1997, 9, 25-27, 京都.
 - 27) 小笠原 勝, 村田 純, 済木育夫: マウスColon 26-L5 結腸癌細胞の肝転移に及ぼす神経ペプチドVIPの抑制効果とその作用機序の解析, 第56回日本癌学会総会, 1997, 9, 25-27, 京都.
 - 28) 藤猪英樹, 村上正晃, 大西康晴, 東 市郎, 上出利光, 済木育夫: B7-1(CD80)遺伝子導入した癌細胞ワクチンと抗接着ペプチド(FC-336)の併用による癌転移抑制効果, 第56回日本癌学会総会, 1997, 9, 25-27, 京都.
 - 29) 村田 純, 鮎川幸一, 済木育夫: マウスB16-BL6メラノーマ細胞の自然肺転移モデルにおけるa-MSHの機能解析, 第56回日本癌学会総会, 1997, 9, 25-27, 京都.
 - 30) Ohnishi Y., Fujii H., Sakamoto T., Fujimaki M. and Saiki I.: A new pseudo-peptide of Arg-Gly-Asp(RGD)with inhibitory properties of tumor metastasis and enzymatic degradation of extracellular matrix. 50th Annual Symposium on Fundamental Cancer Research "Molecular Determinants of Cancer Metastasis", 1997, 10, 28-31, Houston.
 - 31) 永川 修, 藤猪英樹, 小笠原 勝, 村田 純,

- 布施秀樹, 濟木育夫: ヒト前立腺癌細胞株PC-3の浸潤能及び移動能に及ぼす各種神経ペプチドの影響, 第47回日本泌尿器学会中部総会, 1997, 11, 9-10, 岐阜.
- 32) Nishikawa N., Komazawa H., Orikasa A., Yamaguchi J., Kojima M., Ono M., Itoh I., Azuma I., Fujii H., Murata J. and Saiki I.: Synthesis and biological properties of partially modified retro and retro-inverso pseudo peptides of Arg-Gly-Asp (RGD). The Seventh International Kyoto Conference on New Aspects of Organic Chemistry IKCOC-7., 1997, 11, 10-14, Kyoto.
- 33) 濟木育夫: 教育講演「十全大補湯による癌転移の抑制に関する基礎的検討」, 第7回外科漢方研究会, 1997, 11, 13, 大阪.
- 34) 作川理恵子, 村上孝司, 藤猪英樹, 大家信治, 佐野正樹, 山田雄次, 濟木育夫: 大腸癌高転移株 Colon 26-L5 を用いたTAC-101の肝転移抑制効果とその作用機序, 第8回日本レチノイド研究会, 1997, 11, 14-15, 静岡.
- 35) 村上孝司, 佐野正樹, 大家信治, 橋本章弘, 柴田治郎, 松浦知和, 蓮村 哲, 永森静志, 山田雄次, 濟木育夫: TAC-101のヒト肝細胞癌肝内増殖における阻害機序, 第8回日本レチノイド研究会, 1997, 11, 14-15, 静岡.
- 36) Ohnishi Y., Fujii H., Sakamoto T., Fujimaki M. and Saiki I.: A new pseudo-peptide analogue of Arg-Gly-Asp (RGD) inhibits liver metastasis of colon 26-L5 carcinoma cells. 14th Asia Pacific Cancer Conference / 4th Hong Kong International Cancer Congress, 1997, 11, 16-19, Hong Kong.
- 37) 渡辺知恵, 長谷耕二, 奥 亨, 永井博式, 門田重利, 難波恒雄, 濟木育夫: IgE 依存性二相性皮膚反応に及ぼすススキ花穂抽出物の効果, 第18回日本炎症学会, 1997, 11, 20-21, 東京.
- 38) 大西康晴, 藤猪英樹, 坂本 隆, 田沢賢次, 濟木育夫: 十全大補湯の肝転移抑制効果, 第51回日本消化器外科学会総会, 1998, 2, 19-20, 東京.
- ◆ その他の活動
- 1) 濟木育夫: 第2回和漢薬研究所発表会, 発表, 1997, 5, 29-30, 富山.
- 2) 濟木育夫: 富山医科薬科大学大学院生物薬学I 講義「細胞生物学特論」, 1997, 6, 12, 19, 26, 富山.
- 3) 濟木育夫: 三重大学生物資源学部大学院集中講義「生物資源化学特論」1997, 6, 23-24, 三重.
- 4) 濟木育夫: 富山医科薬科大学医学部統合講義(5年生), 1997, 7, 2, 富山.
- 5) 濟木育夫: 第2回和漢薬研究所夏期セミナー「和漢薬に触れる」, 講演: 癌と和漢薬, 1997, 7, 23-24, 富山.
- 6) ススキ花穂による実験的アトピー性皮膚炎に及ぼす効果, 第14回和漢医薬学会シンポジウム「生薬利用の新展開」の取材, 1997, 8, 25, 漢方医薬新聞.
- 7) 濟木育夫: 富山医科薬科大学薬学部専門教育講義「生理化学」, 1997, 9, 10-11, 富山.
- 8) 濟木育夫: 岐阜大学農学部生物資源利用学科集中講義「分子薬理学」, 1997, 9, 17-20, 岐阜.
- 9) ススキ花穂に強力なアトピー性皮膚炎抑制作用, 第14回和漢医薬学会シンポジウム「生薬利用の新展開」の取材, 1997, 10, 9, Medical Tribune.
- 10) 濟木育夫: 第11回経営者・研究者交流会, 「ゲノム解析とDNA産業の展望」, パネルディスカッション・コーディネーター, 1997, 11, 26, 富山.
- 11) 濟木育夫: 富山医科薬科大学薬学部専門教育講義「和漢薬論」, 1997, 12, 1, 富山.
- 12) 濟木育夫: 富山医科薬科大学医学部専門教育講義「免疫学」, 1998, 1, 21, 富山.